

令和7年5月20日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和7年4月分

～令和7年4月 データから見た業界の動き～

令和7年5月20日 発表

すべてのD.I値が大きく低下
物価高騰によるコストアップや消費の落ち込みに苦慮する事業者が多数



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年5月20日 発表

すべてのD.I値が大きく低下 物価高騰によるコストアップや消費の落ち込みに苦慮する事業者が多数

■ 概 況

4月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲6ポイント（前年同月比 20ポイント↓）

収益状況 ▲22ポイント（前年同月比 10ポイント↓）

景況感 ▲26ポイント（前年同月比 6ポイント↓）

となり、すべてのD.I値が前年同月を下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲5ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

収益状況 ▲30ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

景況感 ▲45ポイント（前年同月比 10ポイント↓）となった。

「4月に販売価格を10%値上げした（菓子製造業）」「4月から値上げを実施した事業者が多いが、出荷量減少や経費増加で収益状況は改善していない（骨材・石工品等製造業）」「販売価格を僅かに値上げしたが、コスト上昇に価格転嫁が追いつかない（酒類製造業）」を例に、新年度スタートを契機として価格転嫁を実施した事業者が多かったが、あらゆるコストが上昇を続け転嫁が追いつかない状況が窺える。

また、「3,4月は設備関連を含むあらゆる分野で受注量が減少（業務用機械器具製造業）」「半導体製造装置関連はリピート品、新規品ともに低迷（電気機械器具製造業）」「地区により差があるが全体の出荷量は減少（骨材・石工品等製造業）」と受注量・仕事量が減少した事業者が多く、地場産業でも「酒類離れの影響で販売数量が伸び悩んでいる（酒類製造業）」「インテリアや裏地、ネクタイ等の業種において売上が低迷（織物業）」「展示会が開催されたが海外バイヤーへの売上が例年に比べ減少（貴金属・宝石製品製造業）」などモノの売れ行きが不調となり、景況感D.I値は低下した。

一方、非製造業では…

売上高 ▲7ポイント（前年同月比 34ポイント↓）

収益状況 ▲17ポイント（前年同月比 17ポイント↓）

景況感 ▲13ポイント（前年同月比 3ポイント↓）となった。

「4月はイベントが多く行楽客の増加で稼働が上がった（宿泊業）」「新年度が始まり新社会人や新入学生など来店客数は増加したが、物価高騰で経費支出が増加（美容業）」「物価高騰・仕入価格の上昇により個店の収益状況が悪化（商店街）」など4月に入りイベント増加や入学・新生活シーズンの好影響を受けた業種もあったが、物価高騰が収益回復の足かせとなっている。

また、「景気低迷と物価高で耐久消費財は買い控えの様子（電気機械器具小売業）」「年度末の繁忙期を過ぎ需要に一服感がみられる（道路貨物運送業）」「建設業景況調査によると4月～6月の予想は悪い傾向が続く見通し（総合工事業）」など消費や需要の落ち込みが窺え、売上高・景況感D.I値が低下した。

3月に引き続きアメリカ相互関税に関する報告が多数寄せられ、「アメリカ相互関税、物価高騰等の影響で海外バイヤーや国内富裕層の購買意欲が低下している（ジュエリー製品卸売業）」「アメリカ相互関税の影響が出てくる時期や大きさが読めないため、年内の回復は見込めないとの声が多い（電気機械器具製造業）」を例に、多くの事業者が景気後退による消費・需要の落ち込みなど間接的な影響を懸念している。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています。お気軽にご相談ください。

● 製 造 業

食 料 品 (水産物加工業)	観光関連需要やギフト商品が好調で、前年同月と比べ売上は140%となった。為替の影響で一部原材料価格が下落し、製造コストが低減したため収益状況が好転した。前月、一部販売価格の値上げを実施したが売上は減少しなかった。
食 料 品 (洋菓子製造業)	前年同月と比べ売上は107%となった。4月に販売価格を10%値上げしたところ多少消費者の買い控えが見られたが、売上への影響は少なかった。
食 料 品 (パン・菓子製造業)	原材料、包材、光熱費等が値上がりしているため、利益を確保できる商品単価を設定する必要がある。
食 料 品 (酒類製造業)	販売価格の僅かな値上げを行い売上も微増となったが、コスト上昇に価格転嫁が追いついていないため収益状況は悪化している。酒類離れの影響で販売数量が伸び悩んでいる。
繊維・同製品 (織 物)	インテリアや裏地、ネクタイ等の業種において売上が低迷している。原糸、原材料不足が続き、製品への価格転嫁も進んでいない。アメリカの相互関税については直接的な影響よりも景気後退による消費・需要の落ち込みを懸念している。
繊維・同製品 (織 物)	織物製造に至るまでの準備工程（撚糸、染色、整理、整経など）に携わる事業者の減少や人手不足が課題となっている。 アメリカ相互関税については当産地への直接的な影響は少ないと思われるが、今後の動向を注視する。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は▲45%、収益状況は▲35%となった。今月から徐々に仕事量は増えてきたが売上増加には繋がっていない。今期も厳しい状況は続くと思われるが、今後の動向を注視する。
印刷業	前年同月と比べ収益状況は▲5%となった。コロナ以後から組合員数が減少傾向にある。
窯業・土石 (砂 利)	地区により売上の増減に差がある（峡北は増、峡南・東部は減）が、全体の売上は前年同月と比べ▲10%となった。峡南地区では4月から値上げを実施した事業者が多いが、出荷量減少や経費増加のため収益状況は改善されていない。
窯業・土石 (山碎石)	前年同月と比べ売上は僅かに増加したが収益状況は▲2%となり、年間の総出荷量は前年度と比べ▲5%となった。人材不足や物価高騰など課題は山積みで、3%ほどの値上げは実現できたが、生産コスト上昇分を補うことはできていない。 最大の需要先であるリニアの建設工事の進展が芳しくないため、余裕を持った工期設定と早期発注をお願いしたい。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	前年同月と比べ仕事量が増加しており、売上は5%増加した。
一 般 機 器 (業務用機械器具製造業)	業界全体で景気が低迷している中、3,4月は設備関連を含むあらゆる分野で受注量が減少し、前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲30%となった。アメリカ相互関税の影響も懸念され、先行き不透明。
電 気 機 器 (電気機械部品加工業)	半導体製造装置関連はリピート品、新規品共に低迷が続いており、組合全体では前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲15%となった。アメリカ相互関税の影響が出てくる時期や影響の大きさが読めないため、年内の回復は見込めないとの声が多い。
宝 飾 (研 磨)	山梨ジュエリーフェア・甲府ジェムマーケットが開催されたが、海外バイヤーへの売上が少なく、全体の売上としては前年同月と比べ▲10%となった。

宝 飾 (貴金属)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲50%となった。金の相場が不安定な状態では商品制作の計画を立てられないため先行き不透明。
--------------	--

● 非製造業

卸 売 (ジュエリー)	米トランプ政権が相互関税を発表後、円高が進行し海外バイヤーの購買意欲が低下、物価高騰や株価の乱高下から国内富裕層の購買意欲も低下している。 4月の金・地金価格は17,000円/g超の過去最高値を更新し、1日で300円/g以上の相場変動もあるなど先行きが見通せない。 製品価格上昇により受注量が半減し、仕入額や在庫金額の上昇に伴う現金預金の減少で資金繰りが悪化しており、今後も厳しい状況が続くと予想される。
小 売 (青 果)	前年同月と比べ売上は▲1%、収益状況は▲10%となった。キャベツ、白菜などの葉物野菜は高値で推移したが月半ばから値下がりがした。果物は高値となった。
小 売 (水産物)	4月後半に消費が落ち込んだ。今後値上げが続くため一時的な買い溜めが予想される。コストコ（4月11日に南アルプス市にオープン）の影響は今のところあまり聞かない。
小 売 (電気機械器具小売業)	前年同月と比べ売上は▲10%となり、すべての家電品で前年を下回った。景気低迷と物価高で耐久消費財は買い控えとなっている様子。
商 店 街	大月駅周辺に有料駐車場が乱立している影響で駐車場の売上は減少し、物価高騰により個店の売上・収益状況も悪化している。
商 店 街	前年同月と比べ売上は3%増加したが、仕入価格の上昇により収益状況は悪化した。
宿 泊 業	4月はイベントが多く、行楽客の増加により稼働が上がったが、度重なる物価高騰による宿泊代の値上がりが著しい。 インバウンド増加への対応・対策には課題が多い。
美 容 業	新年度が始まり、新社会人や新入学生など来店客数は一時的に増加したが、物価高騰で経費支出が多く、売上増加・収益状況改善には至らなかった。
産業廃棄物処理	トランプ関税の影響が今後どのように出てくるのか注意深く見ていく。
一般廃棄物処理	新車の納車サイトが約2年～3年と長いため車両台数の確保が難しく、現存車両の修理・修繕費が大幅に増加している。納車に時間がかかる要因は、架装業者が国内に数社程度と少ないことなどから車両の架装（塵芥車仕様等）に時間を要するためである。この問題を早期に改善しなければ業界の事業継続に支障をきたし、災害時に自治体の要請に即時即応できないなどの影響が懸念される。
警 備 業	前月と比べ価格改定により売上が増加した会社もあるが、公共工事では会計年度が終了し、新年度の発注はまだ開始月であるため受注が減少した会社もある。今後の公共工事等の発注状況を注視したい。 年度末に高齢の警備員が退職したため雇用人員が減少した。
自動車整備業	車検台数について、普通車20,568台（昨年同月+2,163台） 軽自動車15,223台（昨年同月+129台）※集計の都合上、3月末数値 令和7年4月より、車検が2カ月前から受けられるようになった。

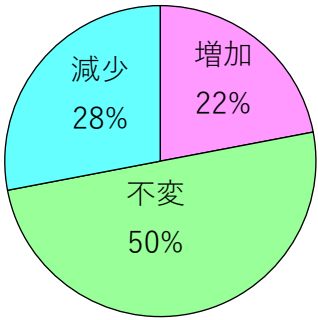
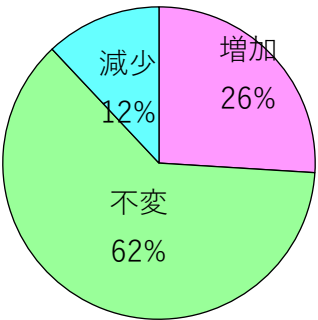
建設業 (総合)	4月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は▲4%となったが、請負金額は14%増加した。建設業景況調査によると、4月～6月の予想は「悪い傾向が続く見通し」との結果になっており、今後の動向を注視している。
建設業 (型枠)	前年同月と比べ収益状況は▲10%となった。4月に入り建築・土木の仕事が徐々に増加している。材料費・人件費の高騰で契約の不調や設計変更による工期の延期が起きている。元請けのゼネコンは競争入札のため、より低価格の下請けを求めている。
建設業 (鉄構)	仕事量等は会員企業によって差があるが、年末にかけては回復する見通し。
設備工事 (電気工事)	情勢に大きな変化はない。
設備工事 (管設備)	管工機材業界全体の景況として、前年同月比で売上が増加した企業が25.9%、不変が55.6%と好況である。管工機材の販売価格が安定してきていることから、安定的な利益確保にも期待したい。
運輸 (軽貨物)	前年同月と比べ売上は▲12%（うち、運送業務のみの売上は▲7%）、収益状況は▲10%となった。配送、引越便の2月から4月への分散を呼びかけているが、分散の意識が薄れ依頼が3月に集中し、4月の受注が減少した。
運輸 (バス)	春シーズンのはずが見込みより伸びが悪く、前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲10%となった。
運輸 (トラック)	年度末の繁忙期を過ぎ需要に一服感がみられることや物価高騰の影響もあり前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲20%となった。 業界全体としては、時間外労働規制や人員確保など課題は山積みである。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
対前年・前月・当月	2024年4月	2025年3月	2025年4月	2024年4月	2025年3月	2025年4月	2024年4月	2025年3月	2025年4月
売 上 高	▲ 5	▲ 10	▲ 5	27	▲ 10	▲ 7	14	▲ 10	▲ 6
収 益 状 況	▲ 30	▲ 40	▲ 30	0	▲ 17	▲ 17	▲ 12	▲ 26	▲ 22
景 況 感	▲ 35	▲ 35	▲ 45	▲ 10	▲ 23	▲ 13	▲ 20	▲ 28	▲ 26

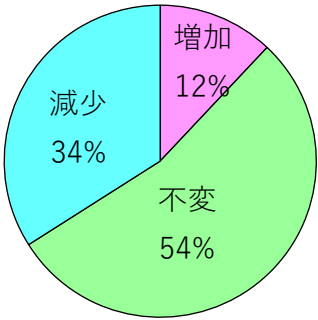
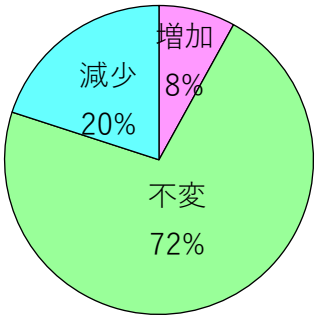
※(（良数値÷対象数）×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売 上 高（前年同月比）



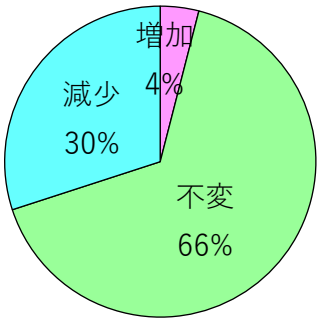
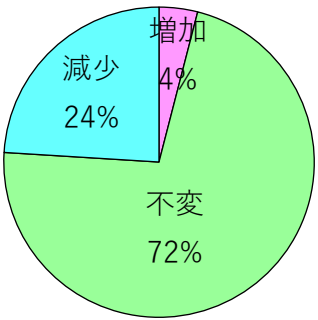
- ・D I 値▲ 6（前年同月比▲20）
- ・業種別D I 値
 - 製 造 業 ▲ 5 (前年同月比± 0)
 - 非製造業 ▲ 7 (前年同月比▲34)
- ・前月比D I 値
 - 製 造 業 + 5
 - 非製造業 + 3

収 益 状 況（前年同月比）



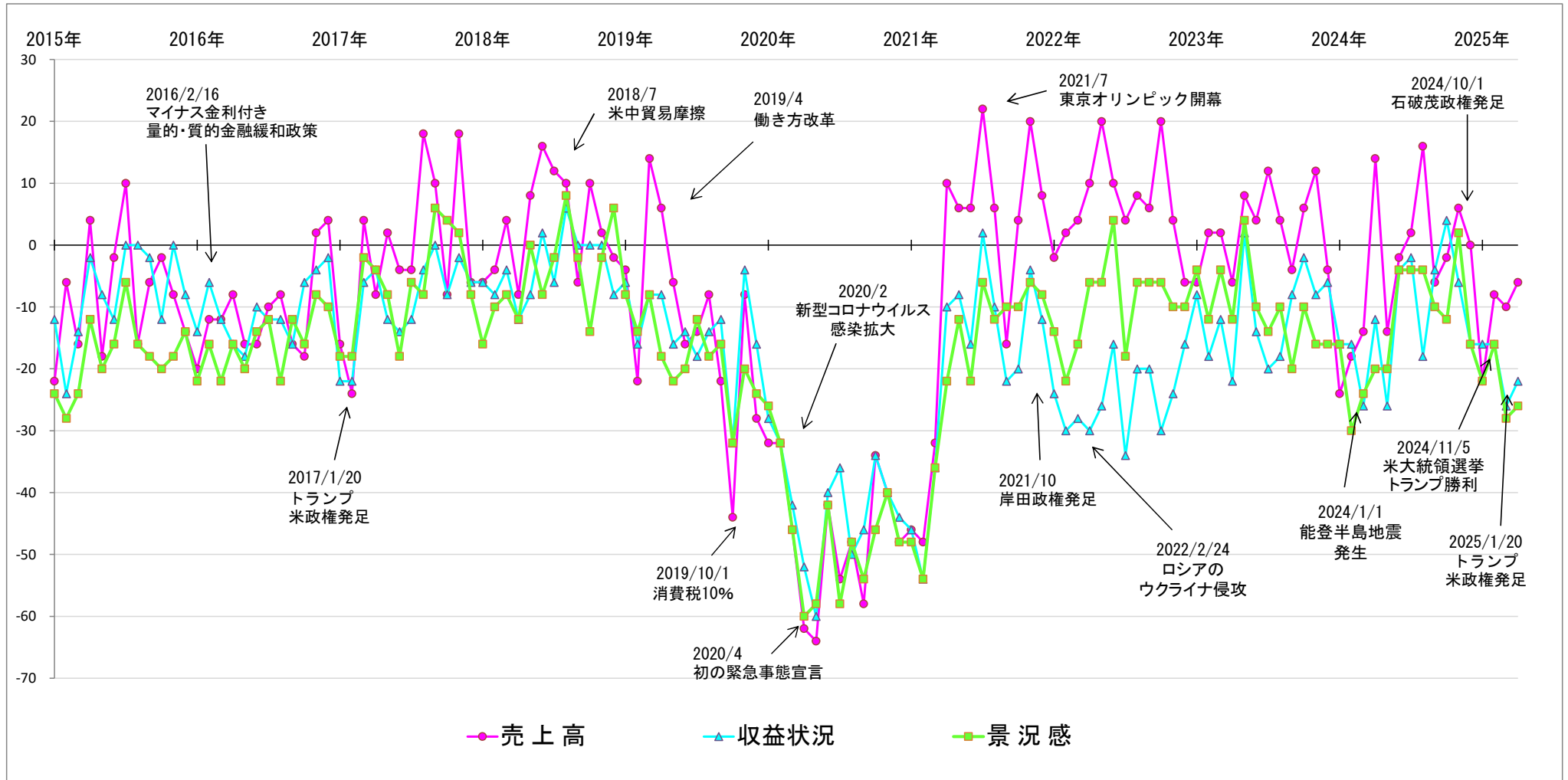
- ・D I 値▲22（前年同月比▲10）
- ・業種別D I 値
 - 製 造 業 ▲30(前年同月比± 0)
 - 非製造業 ▲17(前年同月比▲17)
- ・前月比D I 値
 - 製 造 業 + 10
 - 非製造業 ± 0

景 況 感（前年同月比）

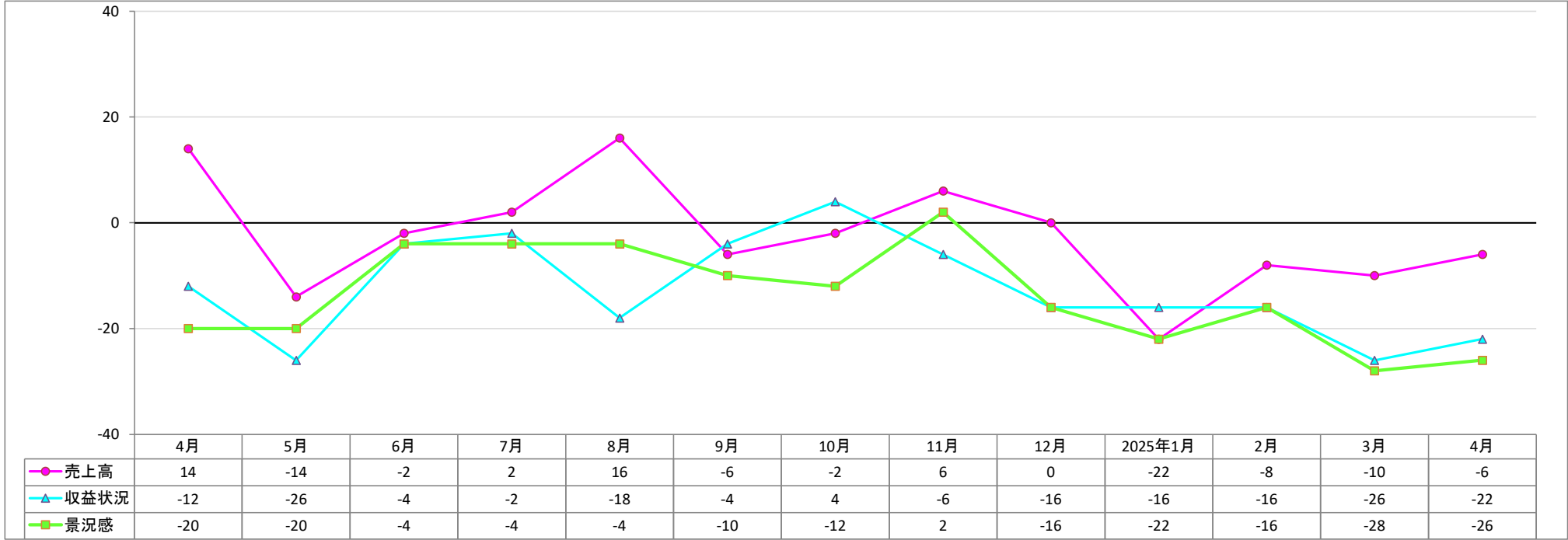


- ・D I 値▲26（前年同月比▲ 6）
- ・業種別D I 値
 - 製 造 業 ▲45(前年同月比▲10)
 - 非製造業 ▲13(前年同月比▲ 3)
- ・前月比D I 値
 - 製 造 業 ▲10
 - 非製造業 + 10

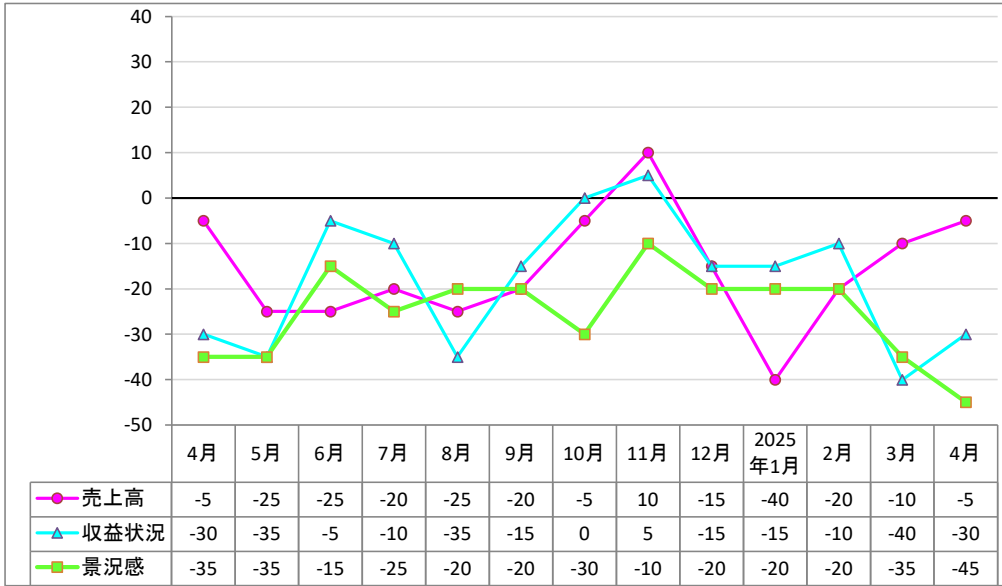
D.I値の推移①(過去10年間) 2015年1月～2025年4月



D.I値の推移②(過去1年間) 2024年4月～2025年4月



【製造業】



【非製造業】

